

為替週間展望 = ドル円は底堅いが上値を伸ばしにくい展開か

[1 1 月 7 日からの 1 週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10 月 31 日 ~ 11 月 4 日			
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	147.54	148.85(31)	145.68(2)	147.99	+0.39
ユーロ・ドル	0.9954	0.9976(2)	0.9730(3)	0.9779	-0.0186
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終 値	前週末比	終 値	前週末比	
日経平均株価	27,199.74	+94.54	日本10年債利回り	0.253	+0.005
ダウ平均株価	32,001.25	-860.55	米10年債利回り	4.147	+0.135
=====					

< 来週の主要経済統計等 >

- 7 日 スイス 10 月雇用統計
独 9 月鉱工業生産指数
- 8 日 日本 9 月勤労者世帯家計調査
日本外貨準備高 (10 月末)
日本為替介入額 (外国為替平衡操作の実施状況、7 ~ 9 月分)
日本 9 月景気動向指数速報値
ユーロ圏 9 月小売売上高指数
米中間選挙
- 9 日 日本 9 月経常収支
中国 10 月消費者物価指数、中国 10 月生産者物価指数
- 10 日 米 10 月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
米 10 月財政収支
- 11 日 独 10 月消費者物価指数
英第 3 四半期 GDP
英 9 月鉱工業生産指数、英 9 月製造業生産指数、英 9 月貿易収支
米 11 月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【 前回のレビュー 】 F R B が積極的な利上げスタンスを修正する可能性が出てきたことで、ドル売りの動きに傾いている。日銀の緩和的な政策スタンスに変化はないものの、従来に比べてドルが一方向的に上昇する流れとはなりにくく、ドル円は 1 4 5 ~ 1 4 6 円台を中心とするレンジ相場となりそうとした。

【 F O M C では 0 . 7 5 % の利上げを決定 】

1 1 月 1 ~ 2 日の米連邦公開市場委員会 (F O M C) では、市場の想定通り 4 会合連続で 0 . 7 5 % の利上げを決定した。政策金利であるフェデラルファンド (F F) レートの誘導目標は 3 . 7 5 ~ 4 . 0 0 % に引き上げられた。

声明文では、「継続的な利上げが適切」との表現を踏襲した。「予定通りに国債と M B S の保有量を減らし続ける」「雇用の増加は堅調であり、失業率は低いまま」「インフレは依然高く、一部は不均衡を反映」「投票が全会一致」としている。今回は、「利上げペースを決定する際に、累積的な引き締めとそれに伴う時間差を考慮する」との表現が加わっており、引き締めの加速が景気に悪影響を及ぼす可能性を警戒したとみられる。

パウエル議長は記者会見で、次回 1 2 月の会合で利上げペースを減速させる可能性を示唆したものの、「最終的な金利水準は従来予想よりも高くなった」と述べており、「引き締め不足や早過ぎる緩和は望まない」との認識を示した。

9月に示されたFOMCメンバーの政策金利見通しでは、2023年中に4.625%としていたが、「最新のデータは9月のドットが低かったことを示唆」との認識を示しており、一段と金利が高くなる可能性を示した。

CME FEDウォッチでは次回12月会合での0.50%の利上げ確率は52%前後、0.75%の利上げ確率は48%前後となっており、おおむね拮抗している。最終的な政策金利の到達点が従来と比べて一段と上昇する可能性が示されたことで、一時低下していた12月の0.75%利上げの可能性が上昇している。

FOMC後のドル円は激しい振幅を見せた。145円台後半まで下落したものの、すぐに上昇に転じて148円近辺まで戻したものの、147円台前半まで下落した。その後はドル高の流れが続いており、3日には148円台を回復している。

FRBによる利上げ継続姿勢に大きな変化はなく、ドルは堅調な動きが続くとみられる。もっとも149円を超えてくると、日本政府・日銀による円買い介入への警戒感も高まりやすくとみられる。こうした中、ドル円は底堅いながらも上値を伸ばしにくい展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、146.00～150.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本9月勤労者世帯家計調査、日本9月景気動向指数速報値、9日に日本9月経常収支、10日に米10月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米10月財政収支、11日に米11月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

FOMC後に一時ドルが売られて、ユーロドルは上昇してパリティ（1ユーロ=1ドル）に迫る場面もみられた。ただ、その後はドル買いに転じたことで、ユーロドルは下落している。

ユーロ圏のインフレ率は高水準が続いており、10月のユーロ圏消費者物価指数速報値は前年比+10.7%となり、前回の+10.0%、事前予想の+10.3%を上回った。欧州中央銀行（ECB）も利上げ姿勢を継続するとみられるが、ユーロ圏の景気減速懸念も根強く、米連邦準備制度理事会（FRB）に追随できるわけではない。ラガルドECB総裁は3日に「FRBと足並みをそろえて行動することはできない」と述べている。

ECBはインフレ率を抑えるための行動が求められるものの、景気への配慮も必要となる。こうした中、ユーロは対ドルで上値の重い展開が見込まれ、戻しても売りに押されやすい流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9500～1.0000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日にスイス10月雇用統計、独9月鉱工業生産指数、8日にユーロ圏9月小売売上高指数、9日に中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数、11日に独10月消費者物価指数、英第3四半期GDP、英9月鉱工業生産指数、英9月製造業生産指数、英9月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご

